

小学校 国語科 事例を通じた評価の具体例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P51～58

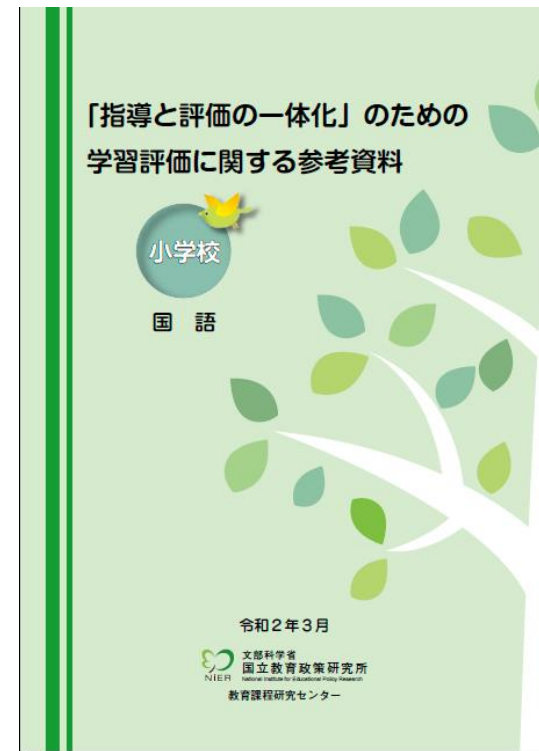
国語科 事例2
キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名
世代による言葉の違いについて意見文を書こう

内容のまとめり
第5学年及び第6学年
〔知識及び技能〕
(3)我が国の言語文化に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕 B「書くこと」
(1)イ・ウ

1 単元の目標

- (1)世代による言葉の違いに気づくことができる。
- (2)筋道の通った文章となるように、文書全体の構成や展開を考えることができる。
- (3)事実と感想，意見とを区別して書くなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- (4)言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。（「学びに向かう力，人間性等」）



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

2 単元で取り上げる言語活動

世代による言葉の違いについて、書き表し方を工夫して意見文を書く。

(関連:[思考力, 判断力, 表現力等]B(2)ア)

3 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------------------------------|---|--|
| <p>①世代による言葉の違いに気付いている。(3)ウ)</p> | <p>①「書くこと」において、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</p> <p>②「書くこと」において、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)</p> | <p>①粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。</p> |

※作成手順は「令和2年度 全県教育課程説明会 国語科部会(小学校)」を参考にしてください。

4 指導と評価の計画(9時間)

4 指導と評価の計画(全9時間)

| 時 | 学 習 活 動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
|---|---|---|------------|
| 1 | <p>○これまでの国語科の学習の中で古文に触れた経験を想起し、古文の言葉が現代の言葉と一部異なっていたことを振り返る。</p> <p>○現代であっても、保護者や地域の大人などの上の世代との会話において戸惑いや難しさを覚えた経験はないかということについて交流する。</p> <p>○戸惑いや難しさの原因が何であるのかを調べるとともに、調べて分かったことを基に意見文を書き、それらを文集にまとめるという学習の見通しをもつ。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」や「平家物語」の文章、「狂言」の台詞などを思い出させ、古文の中で用いられていた言葉と現代の言葉の違いに気付くようにする。 ・「話がどうも通じない」、「意味が分からない」、「馴染みのない言葉が出てくる」、「難しい」など、上の世代が発する言葉に漠然と感じた戸惑いや上の世代との会話の難しさに目を向けるように助言する。 ・完成した文章の読み手は学級の友達とし、文章は文集の形にまとめて学級内で共有するという見通しがもてるようにする。 | |

4 指導と評価の計画(9時間)

| | | | |
|--|--|---|---|
| <p>2 ・ 3 ・ 4 ・ 5</p> | <p>○上の世代との会話において感じる戸惑いや難しさの原因が何であるのかを予想する。</p> <p>○戸惑いや難しさの原因を理解する手がかりとなる情報を資料から収集し、「調べたこと(事実)」としてノートに整理する。また、整理した情報から「分かったこと」もノートに書く。</p> <p>○ノートにまとめたことを友達と説明し合い、相互に質問したり気付いたりしたことを伝えたりして、自分の考えを整理する。</p> <p>○考えたことを読み手に伝えるために、文章全体の構成をどのようにするかを考え、文章構成表に整理する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 資料として「国語に関する世論調査」(文化庁)を紹介し、活用を勧める。 収集した情報は、出典を記録しておくように指導する。 収集した情報を使って戸惑いや難しさの原因を説明できるか、情報と「分かったこと」が対応しているか、「分かったこと」が明確かという点を友達と確認するように指導する。必要があれば修正を求める。 「始め」、「中」、「終わり」の各部分に書く内容の大体と配置を考えるように促す。 読み手の関心を引くために、「始め」において問いかけた | <div data-bbox="1651 349 2051 692" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能①] ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> 世代によって使用する言葉に違いがあることに気付いているかの確認 </div> <div data-bbox="1651 1078 2051 1320" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>[思考・判断・表現①] 文章構成表</p> <ul style="list-style-type: none"> 筋道の通った文章構成になっているかの確認 </div> |
|--|--|---|---|

4 指導と評価の計画(9時間)

| | | | |
|--|--|---|--|
| | <p>○文章構成表を示しながら文章の大まかな流れを友達に説明し、筋道の通った文章になるかどうかを話し合う。</p> | <p>り、自分の経験を示したりする工夫を盛り込むようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭括型，尾括型，双括型の文章モデルを示す。 ・必要に応じて文章構成の修正を指導する。 | |
| <p>6 ・ 7 ・ 8 ・ 9</p> | <p>○ノートに整理したことと文章構成表に基づいて下書きをする。</p> <p>○友達と下書きを読み合う。</p> <p>○下書きを修正し、それを基に清書する。</p> <p>○清書した意見文を友達と読み合う。</p> <p>○学習全体を振り返る。</p> | <p>・下書きを書く際は、客観的な事象による裏付けと合わせて自分が考えたことを示すという点に留意して、書き表し方を工夫できるよう助言する。</p> <p>・書き表し方について友達と助言し合うよう促す。</p> <p>・完成後は友達の考えや書き表し方のよさを伝え合い、自分の文章のよいところに気付けるようにする。</p> <p>・自分の考えたことを伝えるために、どのように書き表し方を工夫したのかを振り返らせる。</p> | <div data-bbox="1600 554 1982 796" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現②] <u>意見文</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを伝えるために書き表し方を工夫しているかの確認 </div> <div data-bbox="1600 846 1982 1139" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] <u>振り返りの記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く試行錯誤しながら書き表し方を工夫しているかの確認 </div> |

5 観点別学習状況の評価の進め方

第6・7・8時においては、「主体的に学習に取り組む態度」について、全員の記録を取る評価を行う。

自身の書き表し方の状態を理解し、それをさらに改善しようとしているか

【主体的に学習に取り組む態度①】粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。(第6・7・8時)

5 観点別学習状況の評価の進め方



Aさん

【友達の指摘】
「『芸術家』という言い方、分かりました。」の文が、事実と分かったことが混ざって、ちよつと分かりにくいよ。

【第6時の振り返り】
同じ意味の言葉でも世代によつて言い方がちがうということ、を伝えるために、「国語に関する世論調査」の情報を使いました。「芸術家」という言い方について書いたところが分かりにくいとAさんに言われました。確かに読みにくいので、次の時間に文を切つて、事実と分かったことをはつきり分けてみようと思います。

【児童3が下書きした「中」の一部】
文化庁が行った「国語に関する世論調査」に、「漢字を用いた言い方と同じような意味で使われるカタカナを用いた言い方があります。そこには、例えば、「アーティスト」という言い方を主に使う人もいれば、「芸術家」という言い方をする人もいるという結果が示されていて、「芸術家」という漢字を用いた言い方を主に使っている人は七十才以上の人に多いことが分かりました。この他、わたしたちが「リベンジ」「アスリート」と言っている言葉について七十才以上の人は「雪辱(せつじょく)」「運動選手」のように漢字を用いた言い方をすることが多いという結果になっています。世代によって主に使う言い方はちがうようです。

図3：第6時における児童3の意見文の一部と振り返りの記述

5 観点別学習状況の評価の進め方



Aさん

【友達の指摘】
「『芸術家』という言い方、分かりました。」の文が、事実と分かったことが混ざって、ちよつと分かりにくいよ。

【児童3が下書きした「中」の一部】
文化庁が行った「国語に関する世論調査」に、「漢字を用いた言い方と同じような意味で使われるカタカナを用いた言い方のどちらを主に使うか」を世代別に調査した。こう目があります。そこには、例えば、「アーティスト」という言い方を主に使う人もいれば、「芸術家」という言い方をする人もいるという結果が示されていて、「芸術家」という漢字を用いた言い方を主に使っている人は七十才以上の人に多いことが分かりました。この他、わたしたちが「リベンジ」「アスリート」と言っている言葉について七十才以上の人は「雪辱（せつじょく）」「運動選手」のように漢字を用いた言い方をすることが多いという結果になっています。世代によって主に使う言い方はちがうようです。

【第6時の振り返り】
同じ意味の言葉でも世代によつて言い方がちがうということ、を伝えるために、「国語に関する世論調査」の情報を使いました。「芸術家」という言い方について書いたところが分かりにくいとAさんに言われました。確かに読みにくいので、次の時間に文を切つて、事実と分かったことをはっきり分けてみようと思います。

本單元においては、「事実と感想、意見とを区別して書く」という書き表し方の工夫について学習している。これを受けて、記述の際の学習の振り返りとして、「事実と感想、意見とを区別して書く」ために「どのようなことに気を付けたか」、「どのような工夫をしたか」などを想起させ、ノートに書かせることにした。同時に、友達や教師から受けた指摘や助言、自ら気が付いたことを踏まえて、いつどのような修正を行っていくか、改善の内容や見通しについても振り返りの中に記述していくよう指導した。

図3：第6時における児童3の意見文の一部と振り返りの記述

5 観点別学習状況の評価の進め方



【友達の指摘】
 「『芸術家』という言い方ゝ分かりました。」の文が、事実と分かったことが混ざって、ちよつと分かりにくいよ。

【児童3が下書きした「中」の一部】
 文化庁が行った「国語に関する世論調査」に、「漢字を用いた言い方と同じような意味で使われるカタカナを用いた言い方のどちらを主に使うか」を世代別に調査したこう目があります。そこには、例えば、「アーティスト」という言い方を主に使う人もいれば、「芸術家」という言い方をする人もいるという結果が示されていて、「芸術家」という漢字を用いた言い方を主に使っている人は七十才以上の人に多いことが分かりました。この他、わたしたちが「リベンジ」「アスリート」と言っている言葉について七十才以上の人は「雪辱(せつじょく)」「運動選手」のように漢字を用いた言い方をすることが多いという結果になっています。世代によって主に使う言い方はちがうようです。

【第6時の振り返り】
 同じ意味の言葉でも世代によって言い方がちがうということ伝えるために、「国語に関する世論調査」の情報を使いました。「芸術家」という言い方について書いたところが分かりにくいとAさんに言われました。確かに読みにくいので、次の時間に文を切って、事実と分かったことをはっきり分けてみようと思います。

そこで、自身の書き表し方の工夫について振り返っているとともに、友達や教師と交流した際に得た指摘や助言を踏まえて書き表し方をさらに良いものにしようと粘り強く試行錯誤する様子が見られた児童は、「おおむね満足できる」状況(B)とした。例えば、図3に示したように、児童3は第6時の学習を振り返って「事実を示すために世論調査の情報を用いたこと」を想起するとともに、「『事実と分かったことが混同していて分かりにくい』という指摘をAさんから受けたこと」や「Aさんの指摘を受けて次時に修正する意向であること」についても記述している。

図3：第6時における児童3の意見文の一部と振り返りの記述

5 観点別学習状況の評価の進め方



児童3の振り返りの記述を読んだ教師もまた助言を行っている。児童3が下書きした「中」(図3)は、提示されている「事実」が「漢字を用いた言い方とカタカナを用いた言い方」に関する情報のみであり、「終わり」で述べようとしている意見の裏付けとしては弱いと判断した教師は、さらに図4にあるように「事実」の書き足しを児童3に勧めた。

図4：教師が児童3の振り返りに添えた助言

5 観点別学習状況の評価の進め方

児童3は、友達の指摘や教師の助言を踏まえて、図5のように修正を試みている。さらに、第7時においては、修正した下書き(図5)に対する意見をBさんに求めている。Bさんからは「数字がはっきりしていない情報があること」を指摘されたため、児童3はその点を振り返りに記述し、納得した上で次の時間に修正しようとしている。こうしたことから、児童3は、書き表し方の工夫について振り返っているとともに、友達や教師と交流した際に得た指摘や助言を踏まえて書き表し方をさらに良いものにしようと粘り強く試行錯誤する様子が見られたと判断し、「おおむね満足できる」状況(B)とした。

【友達の指摘】
 「若い人」って何才くらいなのかははっきりさせると良いと思うな。他にも、最初に示した世論調査は何年に行われたのかが分からないよ。



【児童3が修正した下書き(「中」の部分)】
 文化庁が行った「国語に関する世論調査」に、「漢字を用いた言い方と同じような意味で使われるカタカナを用いた言い方のどちらを主に使うか」を世代別に調査した項目があります。そこには、例えば、「アーティスト」という言い方を主に使う人もいれば、「芸術家」という言い方をする人もいるという結果が示されています。わかい人の六十一・九%は「アーティスト」、七十才以上の人の七十五・六%は「芸術家」と言っているようです。七十才以上の世代は、この他にも、私たちが「リベンジ」、「アスリート」と言っている言葉を「雪辱(せつじょく)」、「運動選手」のような言い方をしていることが多いという結果になっています。こうしたことから、世代によって主に使う言い方はちがうということが分かります。

また、世代によって同じ言葉であっても意味のとらえ方が変わることもあります。平成二十六年に行われた世論調査では、「やばい」の使われ方が取りあげられています。それによると、十六才から十九才の九十一・五%が「やばい」を「とてもすばらしい」という意味で使っています。しかし、五十代以上は八十%以上が「とてもすばらしい」という意味では使っていないという結果になっています。世代によって、「やばい」という言葉の意味がちがうようです。

【第7時の振り返り】
 事実と分かったことをはっきり分けて書いてみました。先生からもアドバイスを受けたので、「やばい」の例も加えてみました。ずいぶんくわしくなった気がします。

でも、Bさんから、年れいなどをはっきりさせてはどうかと言われました。なるほどと思いました。ノートを確認しながら、次の時間に修正しようと思います。

図5：第7時における児童3の意見文の一部と振り返りの記述

5 観点別学習状況の評価の進め方

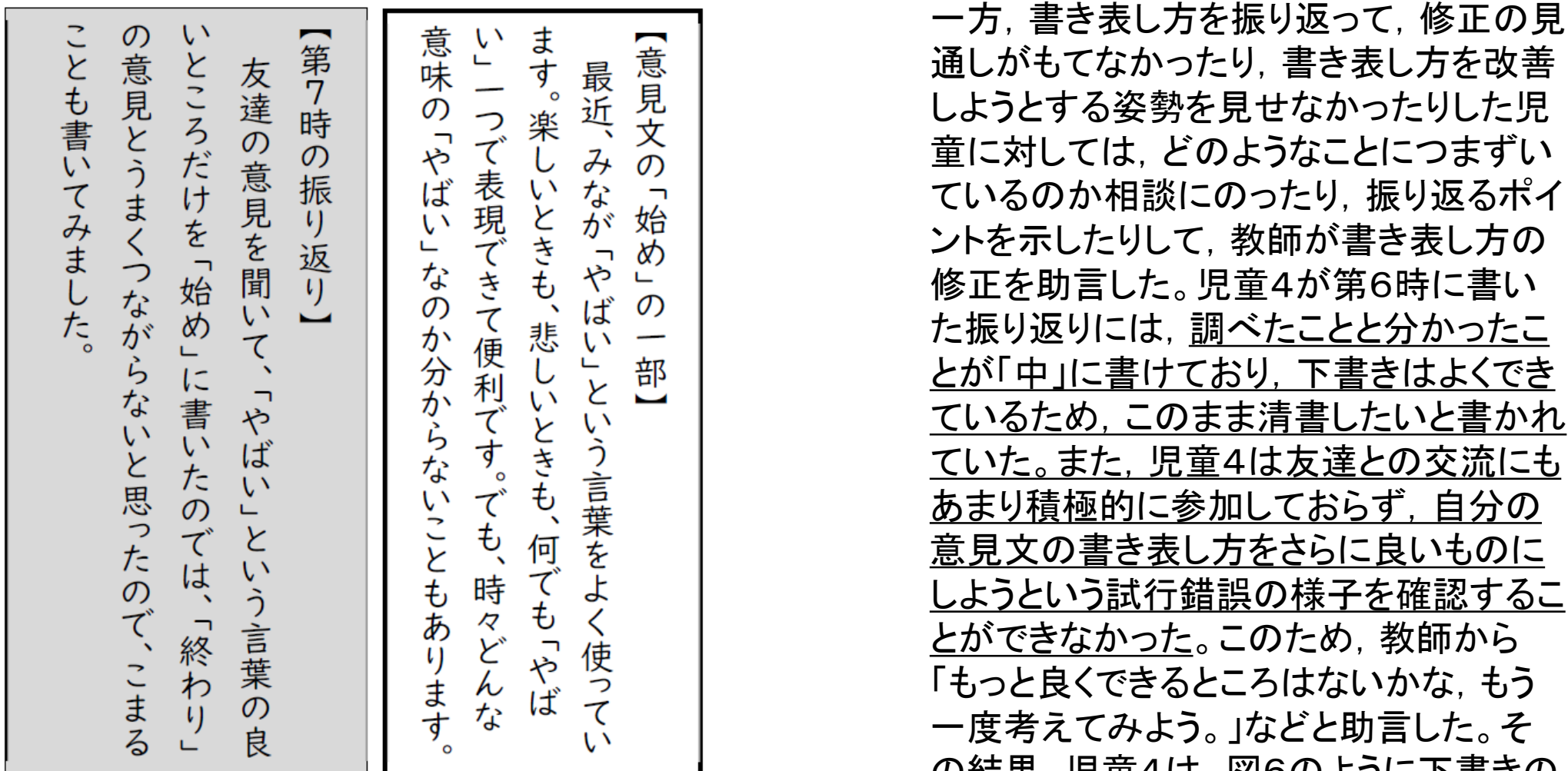


図6：第7時における児童4の意見文の一部と
振り返りの記述

5 観点別学習状況の評価の進め方

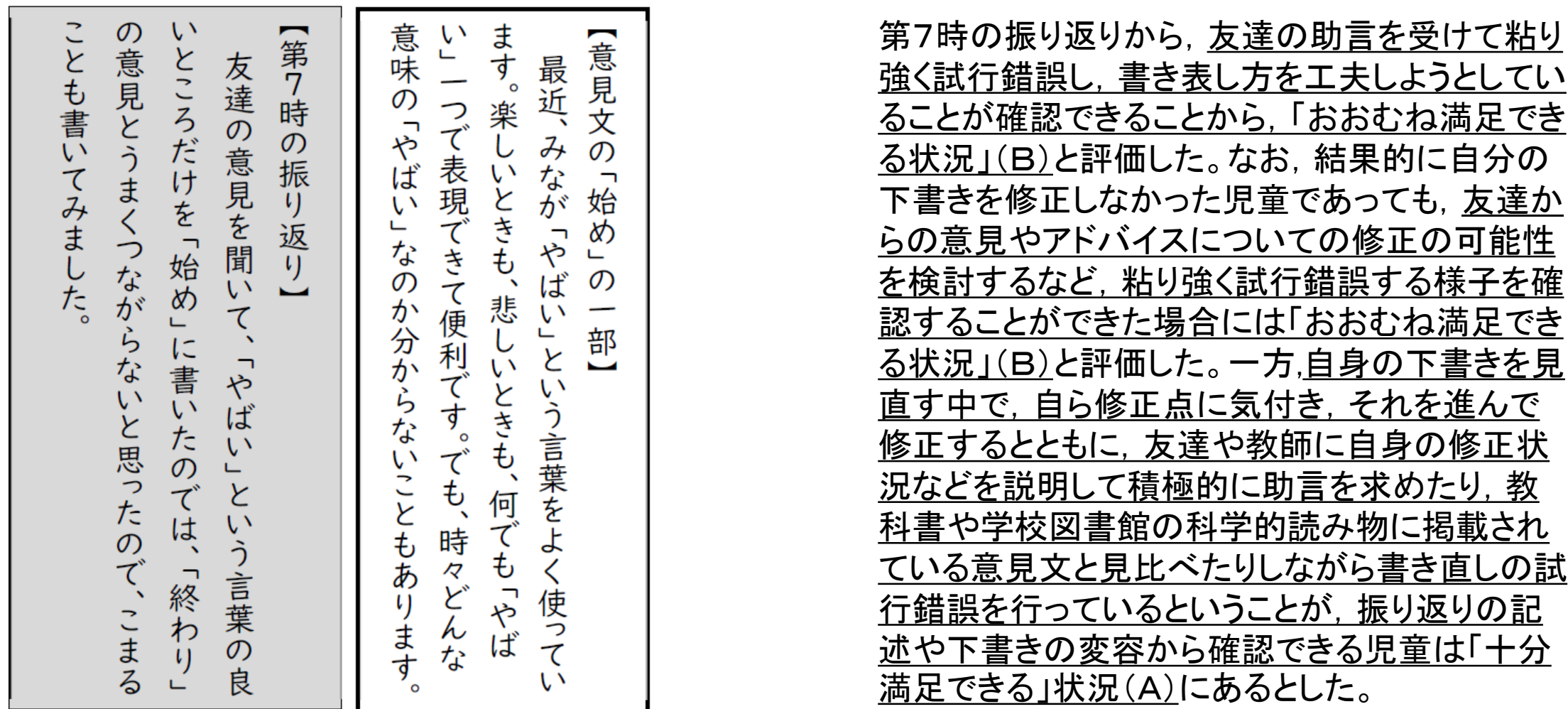


図6：第7時における児童4の意見文の一部と振り返りの記述